



ミャンマー人材像レポート②・・信仰は仏教。日本にも親しみ

新規開拓のため訪れたミャンマー。国民の約90%が仏教という仏教国ミャンマーには、仏舎利や法舎利を収めた大小さまざまな仏塔（パヤー＝パゴダ）が国中に点在します。

今回、滞在中に訪れたのはヤンゴン市内にあるシュエダゴン・パヤー。「聖なる黄金の塔」と称されるミャンマー最大の聖地で、ミャンマーの仏教徒なら一度は訪れたいと願う場所なのだそう。

パヤーを訪れたのは20時ごろだったにも関わらず、ライトアップされ光り輝く黄金の塔の周辺には民族衣装のロンジーを着た現地人も含め多くの方が多く集まっていました。パヤーは生活に密着した場所でもあり、ヤンゴンの人々は、仕事帰りや買い物の途中に立ち寄ってお祈りをしたり、何かとパヤーに立ち寄り時間を過ごしていくそうです。



また、ミャンマーには「八曜日」というミャンマー伝統の暦があり、生まれた曜日によって人となりや運命が決まると信じられています。誕生曜日ごとに方角を表し、祭壇が据えられていて、守護像が祀られています。参拝者は、自分の守護像に水をかけて、人生の平和を祈ります。

パヤーを訪れミャンマーの人たちの信仰の篤さに触れることで、日本語の出来るアジア人材と一緒に働く上で、現地の人々が大切にしている信仰や習慣を理解し、尊重することが大切だと改めて感じました。

【現地でのマナー】

- パヤーや寺院は土足厳禁（靴下も不可）。完全に裸足で参拝すること。
- 僧侶を尊重し、敬意を払うこと。特に、戒律を乱すことになるので女性は僧侶に触れてはいけない。
- 人の頭は神聖とされるので触ってはいけない。子供の頭をなでるのも避けた方が良い。
- 人を指さすことは失礼な行為となるので避けること。
- 怒りの感情を表に出すことはよくないことと考えられているので、何かあっても冷静に対処することを心がける。